



からだといのちの学習旬間（5日～16日）

前途洋々

時代とともに、家族観・結婚観・性に関する認識等も多様化しています。そのような時代を生きていく子供たちが、「自分のからだ」についてしっかり理解し、自分や他の人々の命を大切に豊かな人間関係を結んでいくことができるよう性に関する指導に取り組みます。領域として、次の三つがあります。

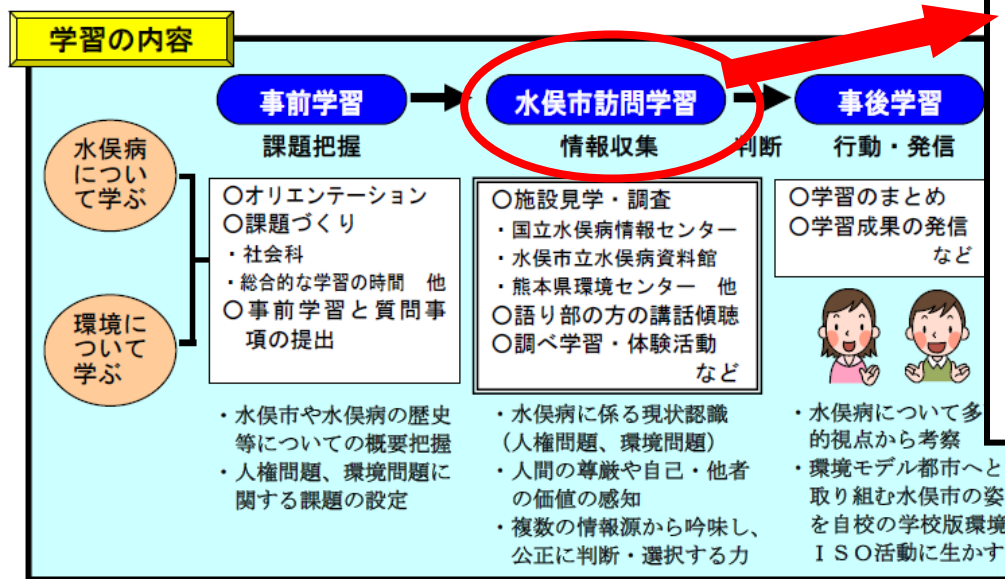
（１）「からだ」の学習 （２）「いのち」の学習 （３）「いきる」の学習

子供たちの発達段階に応じて指導を進めていきますが、例えば、「からだ」の学習では、個人のからだはプライバシーであり、人権として尊重し合うことなどをおさえます。また、「プライベートゾーン」の学習の際は、「性被害の防止」についても触れます。みんなが「自分のいのちはすばらしい」と共感し合えるような取組を目指しています。学習の内容については、各学級通信でお伝えしますので、ご家庭でもぜひ話題にさせていただき、家族の思いを伝え合う機会を設けていただければと思います。よろしくお願いします。



「水俣に学ぶ肥後っ子教室」について

熊本県では、すべての公立小学校に在籍する5年生に対し、「水俣に学ぶ肥後っ子教室」を実施し、水俣病について、また、環境について学ぶ機会を設けています。その目的は、『環境立県くまもと』づくりの担い手である熊本の子供たちに、水俣病への正しい理解を図り、差別や偏見を許さない心情や態度を育むとともに、環境や環境問題への関心を高め、環境保全や環境問題の解決に意欲的に関わろうとする態度や能力を育成する』というものです。見えづらいのですが、学習の内容及び流れは次のようになっています。（熊本県教育委員会HPから）



昨年度及び本年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、水俣市訪問学習は、リモートによる学習となっています。事前学習、訪問学習、事後学習を一体的に捉え、学習した成果を様々な形で発信していきます。



本校5年生は、7月2日（金）の午前中に、県内各地の小学校（2日は10校程度）と一緒に、画面を通して講話による学習を行いました。地球環境問題、地球温暖化の問題、私たちの生活と水の問題などについて、分かりやすいプレゼンと説明により、多くのことを学びました。例えば、熊本県では一人一日当たり321リットルの水を使っていること、地球上の水で人間が生活に使える水は全体の0.01%しかないことなど、具体的な数値もまじえながらお話をいただきました。この後も学習は続きます。子供たちの学びはどんどん広がります。

真剣に画面を見つめる子供たち

